

# 全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞（優秀賞）

## 私たちの水資源

徳島県 阿南市立那賀川中学校 三年 廣瀬 萌瑚

「ここら辺は夜になるとタヌキも出るな。」と笑う父。弟のバイクレースの観戦に行った日曜日のことだ。レース場は人家から遠く離れた森の中にあつた。

仮設トイレの前には水の入った二リットルのペットボトルが三本。初めは不思議に思ったが、「最小限度の水で処理をしましょう。」の張り紙で汚物の処理のためだと分かった。「自然の中で活動するには、自分勝手ではないけないよ。」父の言葉にうなずきながら、動物たちの庭を少し貸してもらっているようで、どこからかタヌキの声が聞こえた気がした。

「この水は井戸水です。飲めますが、生水は飲まないで下さい。」テント横の蛇口の前に大きく書かれた文字。考えてみると、井戸水も上水道も飲める国「日本」。当たり前のことのようにだが、これは世界全体で考えて本当に当たり前なのだろうか。山道を帰りながらほとんど疑問が大きくなってきた。

「日本のように上水道を飲むことができる国はどれだけありますか。」突然の私の電話に厚生労働省の係の方はわざわざ「国連の資料」を調べていただき、後日丁寧に回答してくださった。平成十六年度の資料では、わずかに十三カ国だという答えに大変驚いた。

日本の上水道普及率は平成二十五年の厚生労働省の調査によると九十七、七パーセント。私の住む阿南市は一級河川「那賀川」の下流に位置し、豊富な水に恵まれた地域だ。調べてみると阿南市の取水・配水施設は十八カ所ある、そのほとんどが那賀川水系からの地下水を利用していい。なんだかうれしくなった。都会でよく見かけるように、多くの水道水が浄水場を通り家庭へ送られているのに対して、「私たちの水」は特別な浄水処理をしなくても安全で安心な「飲める水」を確保できているということだと思っただからだ。それは、言葉を換えれば「那賀川」の水質の安全性を示していると言えるのではないか。安全な水を守るため、阿

南市でも那賀川流域の水質汚濁を防ぎ、水源の保護を図る目的で平成七年に阿南市水道水源保護条例を制定し、市内の六十三パーセントを指定地域としている。

しかし、水資源を利用しているのは私たちだ。大人の世界に全てを任せるのは無責任だと思う。この恵まれた水環境の中で私たちができる、より地球に負担をかけない水の使い方について私なりに考えてみた。

まず、私の提案で我が家の水道年間使用量を五年間拾い出してみた。すると家族の予想に反して夏場よりも冬場のほうが多いことが分かった。家族で考え、入浴が主な原因で、夏場は家族それぞれがシャワーで済ませるのに対し、冬場は浴槽にお湯を張ることで使用量が増えたのだと分析した。確かに、一般的に家庭用水で一番多く使われるのは風呂の水だといわれている。我が家では浴槽に油性マジックで今までも二センチ低い場所に線を引くことにし、シャワーのノズルも節水ノズルに変え、「出しっぱなし禁止」という家庭ルールも作った。これはもちろん一例だが生活が多様化している現在、節水に対するそれぞれの家庭のスタイルにあった節水方を探すことが今求められているように感じる。

一杯の味噌汁を魚が住める水にするには風呂桶五杯分もの水が必要となると言われている。限りある自然の中に住む私たちの役割は地球に負担をかけずにきれいな状態で水を戻す方法を考え、実践することだと思ふ。

水は生命を育み、豊かで衛生的な暮らしを支えている。台所や風呂の排水、水洗トイレの溜まった水は、害虫や臭いにフタをしてくれている。公園の噴水、テーマパークの水を使った演出は感動と癒やしの空間を創り、私たちにかげがえのない時間を与えてくれる。

こんな大切な水を守るため、私たち自身が身近なところから地球の負担を減らす努力をしていく必要がある。今、強く思っている。